

## 序

地方自治を保障した日本国憲法と時を同じくして、昭和二十二年に地方自治法が施行されてから七十年が経過しました。社会経済情勢が変化する中で、我が国の地方自治は時代の要請に応えながら大きく発展し、現在では国民の間に広く定着し、地域の発展と我が国の民主政治の基盤となるに至っています。

地方分権改革により、今日の地方公共団体は行財政運営の自由度が増し、果たすべき役割が大幅に拡大しました。その一方で、本格化する人口減少社会に的確に対応し、地方行財政の持続可能性を確保する必要も高まっています。このため、地方公共団体はこれまで以上に住民に信頼される存在となるべく、将来を見据えてより一層の創意工夫を行いながら、さらなる改革に取り組むことが求められています。

そうした状況の中で、地方自治法が施行七十周年を迎えたこの時期に、地方自治の発展を回顧し、あわせて地方自治の将来の姿を展望することは意義あるものと考え、記念論文集を刊行することとしました。

この論文集は、地方自治に関係の深い学界、言論界、財界、関係団体等の権威者並びに地方自治制度の企画立案等に携わってきた関係者及び実務者の論説を収めたものです。本書が地方自治の運営に携わる人々はもとより、地方自治に関心を寄せる全ての方にとって有意義なものとなることを期待しています。

平成三十年三月

総務大臣

野田聖子